

令和6年度 アンケート結果に基づいた学校評価

松阪市立鎌田中学校

| | | | | |
|------------------------------|---|---|--|---|
| <p>めざす学校像</p> | <p>「あい」あふれる鎌中の創造 ～学び「あい」、関わり「あい」、守り「あい」 地域とともにある学校づくりの推進～ ・主体的に学び、行動する生徒 ・他者と支えあい、社会（学校）をつくっていく生徒</p> | | <p>重点目標</p> | <p>(1) 地域と協働する教育活動の創造（3つの「あい」の具現化） (2) 社会性を育む教育の推進（他者と支えあい、社会（学校）をつくっていく資質・能力向上） (3) 「未来を切り拓く力」を育む授業づくりの推進（主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善） (4) 命を大切にする教育の推進</p> |
| <p>重点目標</p> | <p>具体的な内容</p> | <p>評価指標・達成目標</p> | <p>学校評価委員会コメント</p> | |
| <p>地域と協働する教育活動の創造</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が学校教育に参画する活動や生徒が地域社会に貢献する活動を創造する ・「鎌中地域交流センター」や校区の学校（園）との連携を強化する ・HPや通信、メール等を通して、積極的に情報を発信・共有する | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート①肯定意見 90%以上 ・生徒アンケート②～⑤について肯定意見 70%以上 ・公民館および市主催行事への参加 ・鎌田祭をCSとの共同開催に向けて積極的に取り組む ・学年・学級通信の発行、HP等による情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> ・学級や学校の行事に積極的に取り組んでいるという問いに肯定的に回答した生徒は88.1%と僅かに目標達成には至らなかったが、係活動や清掃活動の様子や生徒アンケートからは、前向きに取り組んでいる姿勢がうかがえる。 ・鎌田祭の取組をはじめ、防災学習や教科学習に加え総合的な学習の時間を通して地域の方々とのつながりを感じられている生徒が多く、地域と協働する教育活動が浸透してきている実感がある。 ・一方で、校区の幼稚園や小学校との連携や地域ボランティアへの参画意識はまだまだ低い傾向にある。さらに、地域貢献活動に視野を広げさせたい。 ・本校のCSに関する浸透が保護者や生徒に十分でない実態があり、本年度は動画作成等PR活動に力を入れた。今後さらに広く周知徹底する必要がある。 ・生徒の地域の人たちに支えられているという問いに対する肯定的な回答が96.1%となっており、CSを基盤とした地域と協働する防災学習や鎌田祭等の取組が、生徒が実感できる成果として表れている。 | |
| <p>社会性を育む教育の推進</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要なルールを身につけさせる ・挨拶や言葉遣いなど基本的なスキルを身につけさせる ・個性を活かし集団に貢献するよう、チームワークを身につけさせる ・互いを大切にできるよう、礼節を身につけさせる ・話し合いを通じ、意思決定力や合意形成力を身につけさせる | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート⑥～⑩について肯定意見 70%以上 ・QU学校満足度 60%以上 ・挨拶運動の推進と声かけの実施 ・教職員の師範行動と生徒の規範意識の育成 ・清掃活動等環境整備に対する意識の向上 ・部活動の適切な運営 ・不登校生徒数の減少 | <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつに関しては、やや意識が低下したことが残念である（生徒 52.2% 教職員 100% 保護者 59.9%）。しかも、どちらかというと受け身であることが多い。今後は、地域住民にも挨拶運動の推進について協力いただけるよう呼び掛ける必要を感じている。 ・あいさつに関して、生徒が生活する町内であいさつすると、生徒からもあいさつが返ってくる。顔見知り以外の交通安全指導等の見守りをする支援者にも挨拶できるようになってほしい。CSの新組織の活動の1つに、あいさつ運動を取り入れ、保護者や地域も学校と共に子どもの社会性を育み、あいさつがいきかう安心できる地域づくりにつなげたい。 ・ことあるごとに命を大切にするということ関連させて交通ルールを守って安全に登下校するよう呼び掛けてきた結果その意識が高まってきたといえる（生徒 89.8% 保護者 92.1%）。 ・基本的な生活習慣の定着を意識させる中で、家庭と連携して取り組んでいると思っている職員や保護者も一定のリズムで生活できていると思っている割合がどちらも 90%を超えているが、生徒の認識が低いことが気になる。さらにきめ細かい連携について検討する必要がある。 | |
| <p>「未来を切り拓く力」を育む授業づくりの推進</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・授業スキルの向上を目指す ・ペア・グループの活用を積極的に取り入れる ・授業研究に積極的に取り組む ・学習の基盤となる資質・能力の育成に取り組む | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート⑪～⑮について肯定意見 70%以上 ・かまあいタイムの手法の授業活用 ・各教科における校内公開授業の実施 ・指導教諭を核にした幼小中連携と校区授業研究会および合同研修会実施 ・生活班や小集団活動を通じた仲間意識の形成 | <p>※この重点目標については、授業づくりに関する評価項目であるため、主として教職員の評価です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間については、集中して前向きに取り組んでいる。教職員も、主体的・対話的で深い学びに取り組もうとしており、各教室では落ち着いた雰囲気の中で授業を進められている。しかし、自分の考えをうまく表現できなかったり、学習内容が理解できていなかったりする生徒が実際にはどの教室にも在籍している現実を注視し、だれ一人取り残さない教育の推進に、一層努力したい。 ・計画的に学習したり将来設計をしたりすることができていない生徒に対して、一人ひとりの生徒に寄り添った指導をしていく必要がある。 ・保護者が子どもと学校の話や進路について話す割合が 97.1%と高くなってきている。引き続き、教職員が家庭で話題となるような出来事を学級だより等で発信し、親子での対話の機会を提供していくことが有効だと思われる。 | |
| <p>命を大切にする教育の推進</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめや差別を見抜き、絶対に許さず、解消のために行動する力を育む人権教育を推進する ・災害時に自他の命を守り行動できる力を育む防災教育を推進する ・関係機関と連携し、交通安全教育を推進する ・悩みや不安を受け止めるため、教育相談活動を充実する | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート⑯～㉑について肯定意見 70%以上 ・生徒指導部会週 1 回実施 ・登下校指導の実施 ・毎時間校内パトロール ・教育相談週間年 2 回実施 ・人権教育行動計画の実行 ・KHR活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・仲間の思いや人権を大切にする意識は高いと考えられる。 ・カリキュラムを整理し、自他の命を守り行動できる力を育む防災教育を推進することができた。 ・困ったときに先生や家族に相談できるかとの問いに約 25%の生徒が肯定的な回答ではなかった。一方で、保護者や教職員は相談しやすい接し方をしているつもりである。簡単ではないが、困ったときに相談できる受け皿になれるよう周りの大人が意識する必要がある。 ・仲間を大切に相談にのっているという問いに肯定的に回答した生徒が 97.1%となっており、教職員の人との関わりを大切にしている指導が成果として表れている。 ・生徒のいじめを決して許さないという問いに対する否定的な回答が 26.5%あり、そうした生徒の意識を変えていけるように引き続き取組の充実を期待する。 | |